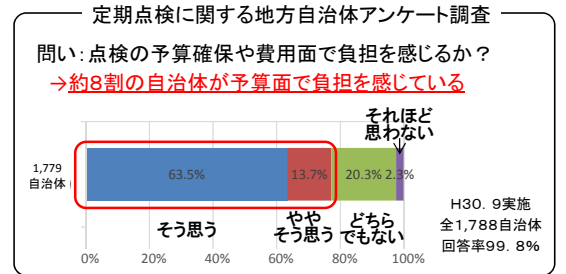
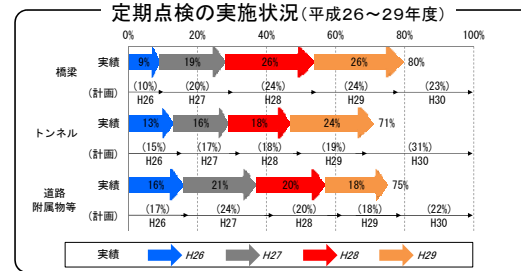


定期点検要領(技術的助言)の改定について

定期点検の見直しについて

背景・必要性

- 1) 定期点検開始 (H26. 7) から5年経過し、**点検が一巡**
- 2) 点検の進捗に伴い、自治体から負担軽減等についての要望
- 3) 点検支援新技術 (写真撮影、非破壊検査等) の**進展**

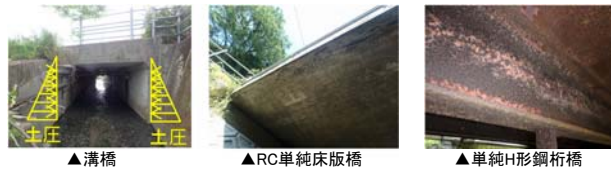


※社会資本整備審議会 道路技術小委員会にて審議

見直しの概要

1. 損傷や構造特性に応じた点検対象の絞り込み

○特定の小規模な橋(溝橋、床版橋やH形鋼桁橋)について、**変状項目**や**着目すべき箇所**の**特定**により作業量を低減

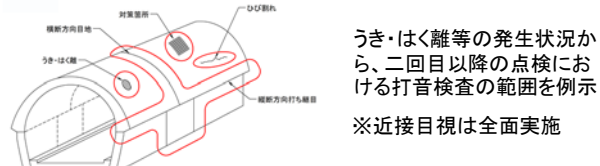


変状項目	着目すべき箇所
特定の溝橋	一般的なコンクリート橋 → 特定の溝橋
○ひびわれ ○床版ひびわれ ○その他	[8箇所] ○桁端部 ○桁中間支点 ○桁支間中央 ○支間1/4部 ○打継部・後打部・目地部 ○定着部 ○切欠部・ゲルバー部 ○その他
	[5箇所] ○頂部 ○側壁 ○底版 ○翼壁 ○その他

○特定の水路カルバート等について、**打音・触診の省略**や**変状項目の特定**により作業量を低減

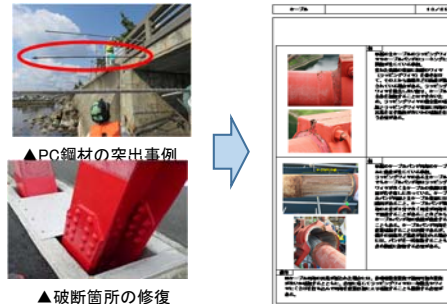
変状項目	利用者被害のおそれがないカルバート
一般的なカルバート	
[7項目] ○ひびわれ ○うき ○ぬい出し ○洗掘、不同沈下 ○附属物等の変状 ○路上施設の異常(内空道路) ○舗装の異常(上部道路)	[4項目] ○ひびわれ ○ぬい出し ○洗掘、不同沈下 ○舗装の異常(上部道路)

○二回目以降のトンネル点検において、**打音検査の範囲を特定**することで打音検査の作業量を低減



2. 特徴的な損傷への対応(充実)

○コンクリート、PC鋼材など**埋込部**や**引張材**について着目箇所や留意事項を充実



○水中部材(パイルベントの腐食・断面欠損、洗掘など)について、着目箇所や留意事項を充実



○シェッド等の土工構造物について、**経年変化(崩土の堆積や基礎地盤の変状等)の影響**を充実



3. 新技術の活用による点検方法の効率化

○狭あい部、水中部など、**近接目視の困難箇所**では打音や触診等に加えて、**必要に応じて非破壊検査**や**試掘**を行い、詳細に状態を把握



○自らの近接目視によるときと**同等の健全性の診断**を行うことができると判断すれば、その他の方法による場合も**近接目視を基本の範囲**



新技術利用のガイドライン

新技術の性能カタログ